2026年11月号
令和8年11月20日

漁況情報・浜の話題

神奈川県水産技術センター
企画研究部　046-882-2489
相模湾試験場 0465-23-8531
https://www.pref.kanagawa.jp/docs/mx7/wadai/

漁 況 情 報

【10月】金沢・大津・走水：海苔養殖

10月に入り、横浜市漁協金沢支所及び横須賀市東部漁協走水大津支所の各海苔漁業者は、種付けした海苔網を沖に張り出し、干出を繰り返し行い、海苔網に付く雑珪藻などの汚れを落とし、おいしくて病気に強い海苔を作る作業に取り組んでいます。今年は水温も予想していた以上に下がらず、育ちが遅いようですが、これから育ってくれることを願っています。寒くなるにつれ、海苔養殖が本格的に始まります。


海苔網干出：支柱式


海苔網干出：浮き流し式


網についた芽（黒色）

浜 の 話 題

【10月6日】鎌倉：ハマグリ放流

10月6日、湘南漁協鎌倉支所の漁業者グループ「鎌倉はまぐり部会」は、（公社）全国豊かな海づくり推進協会の支援と漁業者グループの自主財源とで、ハマグリを314kg放流しました。ハマグリは、漁業者グループが自主的に設定した産卵育成を目的とした禁漁区に、産卵親貝として放流しました。今年は試験的に親貝放流を行い、ハマグリの再生産を期待しています。

【10月7日】金沢：横浜金沢ブランド認定書

10月8日、主催の横浜金沢観光協会は、第12回横浜金沢ブランドの認定書の授与式がを行いました。横浜金沢ブランドは横浜市金沢区の魅力発信や地域経済・観光の活性化を目的に、海・緑・歴史を感じさせる優れた特産品や加工品、工芸品など認定する制度です。2年に1回の割合で審査が行われています。今回は、横浜市漁協金沢支所所属、漁業者の緑川和希氏の「忠彦丸海苔シリーズ」が認定され、その他に6事業者6商品が認定されました。


横浜金沢ブランド認定証書

横浜金沢ブランド認定証書
第003号
忠彦丸海苔シリーズ
（忠彦丸焼きのり／高級乾海苔）
株式会社アイコ・フロンティア
代表取締役社長　横川　和夫　様
忠彦丸海苔シリーズ（忠彦丸焼きのり／
高級乾海苔）は横浜金沢の逸品として
誇れる優秀な商品であることを証し横
浜金沢ブランドとして認定します
令和5年10月9日
斎藤　真美奈
横川　和夫

【10 月 7 日】茅ヶ崎：ハマグリ増殖活動 Sakanadia 掲載

10月7日、茅ケ崎はまぐり会「茅ヶ崎市漁協のハマグリ増殖活動～茅ヶ崎市とともに特産品づくり」の取組が、全国の水産優良事例を紹介する全漁連のサイトSakanadiaに掲載されました。茅ヶ崎はまぐり部会の資源増殖活動や、6月6日に茅ヶ崎市と連携して開催した、茅ヶ崎漁港マルシェでのはまぐり祭り、同市のハマグリ放流イベント等の取組が紹介されていますので、ご覧ください。

全漁連サイトSakanadia　　https://sakanadia.jp/torikumi/jfchigasakishi_hardclam/

【10 月 9 日】平塚：台湾の学生等、牡蠣養殖視察

10月9日、台湾政府の「青年百億海外圓夢基金計画」に基づき、台湾の水産試験場、大学職員と学生が平塚市漁協を訪れ、同漁協が平塚漁港内で行っている牡蠣養殖を視察しました。ペットボトルを用いた天然採苗器により、多くのマガキ種苗を採集できることを説明した所、「興味深い技術だ！自国でも試してみる」と話されていました。別日には、地どれ魚直売会をはじめとしたイベントに参加し、平塚の漁業者と交流を深めたそうです。


ペットボトルで天然採苗したマガキ種苗計測


昨年天然採苗したものも計測

【10 月 15 日】腰越：サザエ放流、小学校校外学習

10月15日、腰越漁協は、（公財）相模湾水産振興事業団の支援により、10,500個のサザエ種苗を放流しました。併せて、（公財）神奈川県栽培漁業協会の協力により、地元小学校の校外学習と種苗放流体験を実施しました。

【10 月 16 日】小坪：サザエ放流

10月16日、湘南漁協小坪支所は、サザエ種苗を小坪地先に47,000個放流しました。種苗は、

逗子市から約半数、(公財)相模湾水産振興事業団から7,000個の支援を受けました。




放流したサザエの様子(水中写真)

【10 月 16 日】岩漁協：カジメスポアバッグ投入

10月16日、岩漁協海士会は岩沖においてカジメのスポアバッグを投入しました。当日は、漁業者が漁船から水深7m程度のポイントへ20基程度を投入しました。成熟したカジメが遊走子を放出し、新芽が生育することを期待しています。


カジメを入れたスポアバッグ(投入前)


投入の様子

【10 月 20 日】漁業士会：研修会

10月20日、神奈川県漁業士会は、当所の研究発表会と共催で「漁業士研修会」を、かながわ県民センターで開催し、漁業士会員や漁業者、水産関係団体等、82名の参加がありました。当日は当所研究員から「黒潮大蛇行前後の海況や漁況の変化」、「ヒラメの食性等の調査結果」、「フリー配偶体を活用したワカメ種苗生産技術」について発表があり、漁業経営者のためのセミナーでは「経営の優れた漁業者の成功事例」等をテーマとした研修が行われ、多岐にわたる内容について研鑽しました。




県水産技術センター研究発表会と漁業士研修会の様子

【10 月 25 日】小田原：あじ・地魚まつり

10月25日、「小田原あじ・地魚まつり」が小田原市公設水産地方卸売市場で開催されました。早朝に水揚げされた新鮮な地魚を購入できるイベントや魚に直接触れられる「相模湾のさわる水族館」など、さまざまなイベントが行われ、たいへん盛況でした。



さわる水族館（ネコザメ）


さわる水族館（手前：ニザダイ・奥：タカノハダイ）

【10 月下旬】江の島・平塚：ワカメ種苗生産、芽胞体確認

平塚市漁協と江の島片瀬漁協では、11月下旬のワカメ種苗の沖出しに備えて、9月下旬以降陸上の育苗施設の照度を明るくして海水交換等で栄養を与えることにより成長を促し、10月下旬には4～8列の芽胞体が確認できました。


ワカメ芽胞体（赤丸部分）